

# 併願パターン例

自分に合った併願パターンで  
合否判定の機会を増やすことができます。

## 例1 一度の受験で多くの合否判定の機会が欲しい

T日程入試と英語外部試験利用入試の併願で複数の学部・学科を一度に受験することが可能です。

- T日程入試および英語外部試験利用入試は受験科目と出題範囲が同一のパターン内で併願が可能です。
- T日程入試と英語外部試験利用入試との併願が可能です。
- 両入試とも併願割引が適用され、2件目以降の入学検定料は15,000円になります。

大学入学共通テスト利用入試B方式・C方式は複数学部の併願が可能です。

- 大学入学共通テスト利用入試B方式およびC方式は複数学部の併願が可能です。
- 大学入学共通テスト利用入試B方式とC方式、両方式の併願が可能です。

## 例2 特定の学部で学びたい

A方式入試は学部や学科ごとに試験日を設定しているため、試験日が異なる学部・学科の併願が可能です。

学科を変えて同一学部を併願する場合

- 法学部I日程:国際政治学科(2月8日)
- 法学部II日程:法律学科または政治学科(2月16日)

同一系統の学部を併願する場合

- 経営学部(経営学科)I日程(2月7日)
- 経営学部(経営戦略学科または市場経営学科) II日程(2月8日)
- 経済学部(国際経済学科または現代ビジネス学科) I日程(2月9日)
- 経済学部(経済学科)II日程(2月12日)

## 例3 入学したい学部・学科が決まっている

同一学部・学科を異なる入試方式で複数回受験することにより、合否判定の機会が増えます。

学部・学科によっては、最大5併願が可能です。

- T日程入試
- A方式入試
- 大学入学共通テスト利用入試B方式
- 英語外部試験利用入試
- 大学入学共通テスト利用入試C方式

## 例4 学びたい系統・分野が決まっている

同系統の学部の入試を組み合わせることで、合否判定の機会が増えます。

また、A方式入試は試験日が異なれば同一学部であっても併願が可能です。

経済・経営学系希望の場合

- T日程入試:経済学部、経営学部を併願(2月5日)
- 英語外部試験利用入試:  
経済学部国際経済学科(2月5日)  
経営学部経営学科、経営戦略学科または市場経営学科(2月5日)
- A方式入試:  
経営学部I日程:経営学科(2月7日)  
経営学部II日程:経営戦略学科または市場経営学科(2月8日)  
経済学部I日程:国際経済学科または現代ビジネス学科(2月9日)  
経済学部II日程:経済学科(2月12日)
- 大学入学共通テスト利用入試:  
B・C方式それぞれで経済学部、経営学部を併願

心理学系希望の場合

- T日程入試:  
文学部心理学科、現代福祉学部臨床心理学科を併願(2月5日)
- 英語外部試験利用入試:  
現代福祉学部臨床心理学科(2月5日)
- A方式入試:  
文学部II日程:心理学科(2月8日)  
現代福祉学部臨床心理学科(2月9日)
- 大学入学共通テスト利用入試:  
B・C方式それぞれで文学部心理学科、  
現代福祉学部臨床心理学科を併願